



E.BOEHM

ART TEXTILE



1746年創業のフランス繊維会社 DMC の工場のひとつで撮影（アルザス地方ファスタットにて © Grégory Tachet

ハウス E.BOEHM がイラクサ素材の責任あるテキスタイルアートを考案し、高級品の世界に参入

高級品の基準を打ち破るメゾンの新コレクションは、倫理的手法を採用し、社会・環境問題への責務を再確認

コルマル（フランス）2024年4月25日 PR Newswire イラクサ繊維を素材とする新しいコレクション「La Récolte Sauvage（野生の収穫）」を発表するに当たって、若い Maison E.BOEHM は、新たな経済的、社会的、環境的バランスを求めています。Eric Boehm 氏は「この収穫は、自然、その資源、人類、環境をもっと尊重し、これまでとは異なる生産方式への招待状です」と語っています。

E.BOEHM の「La Récolte Sauvage」は人間的で、本物で、行動的です。これは、イラクサ繊維を素材とする先祖伝来の職人技や破壊的ノウハウを習得しているネパールの地域社会と協力しています。E.BOEHM のメゾンは、18世紀の名人染色家で元 Manufacture Royale de Bize 支配人の Paul Gout の影響を受けた約 40 種の植物染料の洗練された創造と開発に基づいています。

▽方向転換の兆し

Eric Boehm 氏は「イラクサは、繊維技術者としての 30 年以上、研究と会合の 16 年以上を経て、私の転換プロジェクトになりました」と認めています。当時繊維会社の生産管理者だったこの芸術家は、2008 年の世界的な綿花危機のさなかに、イラクサが優れた代替素材であることに気付きました。1880 年に出版された Paul-Auguste Favier の本「Les Orties Textiles」を読んだことが、その関心のきっかけでした。この芸術家はその後、植物学者 Boehmer によって作成されたイラクサの品種の名前である「Boehmeria」に自分の姓を認識しました。これらの啓示は、E.BOEHM - Art Textile のよりどころとなりました。



Maison E.BOEHM - La Récolte Sauvage - プレゼンテーション

©写真撮影: Grégory Tachet



お弁当箱



小冊子



クロマチック・バズ

▽育む持続可能な母なる大地

「La Récolte Sauvage」は、日本の積み重ね可能な弁当箱のように、持ち運び可能なケースに微妙に配置された「ベルベットのモザイク」で構成されています。Maison E.BOEHM のデザ

イナーは、豊かな育む地球とつながり、最適で責任ある持続可能なインテリアデザイン（敷物、カバー、織物）にこれらの技術や材質からインスピレーションを引き出すよう美的探求者に促しています。それらは丁寧な手作りの仕事への敬意を表しています。イラクサはその固有の優位性と適応性により、さまざまな高級品分野で計り知れない潜在性を秘めています。ファッションからアクセサリー、さらにはパッケージに至るまで、その多用途性には限界がありません。

▽認証付きの公正取引素材

Maison E.BOEHM は、カーペット、ウォールアート、インテリア構造物など、住宅と公共部門に適した素材を使用しています。用途等級、高級感、耐火性などで高水準の認証を取得しており、公正取引認証（[Label Step](#) 認定パートナー）を取得しています。

季節の移り変わりにつれて、自然が私たちに提供してくれるもの、豊かで驚くべきユニークな資源を借りましょう。

▽Maison E.BOEHM ブランドについて

創業者エリック・ベームの、代々受け継がれてきた特別な芸術や工芸品、ハンドメイド作品、高貴で希少な素材や生地、旅や物語、そしてアーティストと職人の相互交流への情熱から生まれたメゾン E.BOEHM は、テキスタイル・アートの分野におけるノウハウの出版社です。エリック・ベームは、この新しい物語、この新しい合流の場を、美学者、好奇心旺盛な人、特異な人、ヒューマニスト、クリエイティブな人、放浪者、そしてテキスタイル・アートの秘伝のノウハウと文化的多様性に敬意を表し、我を忘れて来たいと願う熱狂的なファンたちと分かち合おうとしている。

▽Eric Boehm について

エリック・ベームは、メゾン E.BOEHM を通して、テクノロジーとアートの交流に敬意を表し、自分自身と周囲の世界との調和を創造している。工業生産と消費に大きく影響された30年の繊維業界を経て、ヒューマニズムと社会的価値観のおかげで、エリック・ベームは、ルーベの国立繊維芸術産業学校で繊維技術者として修業する間に忘れ去られた芸術の真の価値を復活させたいと考えている。2021年、15世紀から手作りのタペストリーで世界的に有名な町、オーブッソンでのタペストリー・コースは、彼の情熱をひとつの「工芸品」に結びつける真の嗜好を明らかにした。

▽メディア問い合わせ先

Claudia Vasquez

メゾン E.BOEHM を代表するプレスコンサルタント

Original Story agency

Barcelona

E-mail: claudia@originalstory.com